

〈論文〉

eラーニング時代の試み

— 「日本名著選読」の場合 —

頼 衍 宏

キーワード：読解力, 作文力, Hot Potatoes, チームティーチング制度, 俳句

1. はじめに

台湾における日本語学科を見渡せば「日本名著選読」を開講しているところが少なからずある。これに関する論文も東呉大学の教員などによって発表され、注目を集めているが、伝統的な教具・教材に沿って教室活動を繰り返すのが今の主流のように見える。ただ、インターネットによる学習活動が叫ばれている今日では、ムードル (Moodle) を導入すると、より一層の効果が期待できそうである。そうした見地に立ち、筆者はeラーニング時代の「日本名著選読」(2009年9月～2010年5月)のあり方を模索してみようと思った。

この授業をおこなう際に、筆者は四択問題を新たに作り、これを受講者に示した上で、グループごとに四択のクイズバンクを提出させた。ただ、その中に看過できない諸問題があり、これを訂正しないかぎり教壇の上で発表させるわけにはいかないと考えた。

幸いなことに、この授業は教育部教学卓越計画の補助を受けたことにより、学外の専門家を招聘して、文学の鑑賞と創作について教えてもらうことができた。筆者はムードルの宿題提出機能を取り入れながら、俳句会を運営してみた。そこで出来上がった詠草一覧表について添削と選評までしていただいた。このような経験を活かした上で、学生に「全国第一回日文俳句大賽」へ投句させたところ、上位に入ることができた。しかし、この過程で諸々の問題が発生している。これらを検討する必要がある。

こうしたオンライン教育システムを有効に利用しつつ、なおかつ作家の知的養分を吸収することができれば、オンラインコースはより多面的な様相を呈し、受講者の学習意欲を更に向上させることができるだろう。

2. Hot Potatoesの導入

ムードルが普及しつつある昨今では、たとえば、銘伝大学においてはそれが当たり前のように導入され、実質上教員と学生の双方に既に義務付けられている。「日本名著選読」に即してムードルとの接点を考えると、まず次の2点が挙げられる。

①最初の導入部分として作者の伝記を紹介する穴埋めの形の練習問題をあらかじめ作っておく。授業開始直後、これを解いていく。

②最後の締め括りとして作品の読み・作者全般についての四択問題をあらかじめ用意しておく。テキストを読み終わった後、これを解いていく。これによって復習の効果が認められる。

そのうち、①については、無論ムードルのなかでそうした質問バンクをすぐにも作ることができる。しかし、「問題を作るのが面倒」という欠点が濱岡（2008：21）によって指摘されている。また諸機能（ClueとHint）が不足していることが授業の活性化を鈍らせているという弱点が否めない。その間にもうひとつのソフト——Hot Potatoesを介在させたほうが、ムードルの欠点を補えるし、しかもそれが作り出したhtmファイルをムードルにアップロードすると自由に実行できる。従って、Hot Potatoesを通して質問バンクを作成する方針が固まったわけである。

2.1 JClozeを用いた伝記の練習問題作成にあたっての留意点

Hot PotatoesのJClozeを利用すれば、作者の略伝を取り込むことができる。石川啄木、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、宮沢賢治、葉山嘉樹、川端康成、中島敦、俵万智の順で、これに取り組んだ。JapanKnowledgeに収録された『日本大百科全書』『日本人名大辞典』などの作家記事に基づいて、1頁を超えない程度の情報量だけを引用し、加工した。その中からキーワードを5つずつ選び出し、さらにYahoo Japan辞書の記載をClueとして利用した。後は「ヒント」ボタンと時間制限（10分間）を設定してhtmファイルを作り出した。そして、テキスト解読に入る前の作者紹介の段階では、ムードルにアップロード済みのhtmファイルを開く。

Clueボタンを押して少しずつ浮かび上がってくる情報を基に、解説しながら当該作者を理解するうえで不可欠なキーワードを入力していくというのが当該授業方式である。Hintボタンを押

Your time is over!

Correct!
Your score is 50%.

慶応3年1月5日（1867年2月9日） - 大正5年（1916年）12月9日

日本の小説家、評論家、英文学者。本名、夏目 金之助（なつめ きんのすけ）。『吾輩は猫である』『こゝろ』などの作品で広く知られる。森鷗外と並ぶ明治・大正時代の文豪である。江戸の牛込馬場下横町（現在の東京都新宿区喜久井町）出身。俳号は愚陀仏。

大学時代に正岡子規と出会い、俳句を学ぶ。帝国大学（後に東京帝国大学）英文科卒業後、松山で愛媛県尋常中学教師、熊本で五高教授などを務めた後、イギリスへ留学。帰国後、東京帝大講師として英文学を講じながら、「吾輩は猫である」を雑誌『ホトギス』に発表。これが評判になり「坊っちゃん」「倫敦塔」などを書く。

その後朝日新聞社に入社し、「虞美人草」「三四郎」などを掲載。当初は余裕派と呼ばれた。

「修善寺の大患」後は、「行人」「こゝろ」「硝子戸の中」などを執筆。「則天去私」（そくてんきよし）の境地に達したといわれる。晩年は胃潰瘍に悩まされ、「明暗」が絶筆となった。

昭和59年（1984年）から平成16年（2004年）まで発行された日本銀行券D千円券に肖像が採用された。

（図1）クイズ ザ・夏目漱石

すごとにキーワードが一字ずつ現れてくる。これは度忘れした場合に備える仕組みである。ただ、ClueボタンであれHintボタンであれクリックすると減点される。10分間程度で作者の基本情報を紹介してきたが、解答する過程そのもののスリル感も手伝って、概ね歓迎された雰囲気の中かで一段落をつけることができた。

例えば、漱石のクイズ画面を取り上げてみよう。50点を取ったのはClueボタンを押したことによる減点の結果である。

同じhtml ファイルをリソースとしてムードルに載せると、帰宅後、復習に

用いることができるはずである。ただ、その段階で正解をめぐる問題が浮かび上がってきた。

復習のつもりで直接に穴埋め問題に挑戦するとして、5つのキーワードを入力する。穴埋めのなかに入力すべき正解は「イギリス」と「余裕派」ではあるが、一方、「英国」と「低徊派」(秋山 2000: 157・161)「高踏派」(真下 2003: 148)なども正解となりうる。ところが、後者を入れてもしかるべき点数が得られなかった。この欠点を改善せねばならなかった。また、鷗外に関するクイズの場合でも、「乃木希典」とフルネームで回答するのが唯一の正答だったが、設定上、通称の「乃木大将」も正解として追加せねばならなかった。言い換えれば、Hot PotatoesのJQuizのところで、日本文学史の教科書を机の上に置いておいて、Alternative correct answers (別解)の有無を常に確認した上で設定を慎重にしなければならないという課題が残っているわけである。

2.2 JQuiz (作品, 作者全般) の問題点

近現代小説を取り入れて、読解教育を展開する際に、学生による質問バンクを活用するやり方が注目される。例えば、「クラスメートは質問事項を用意し、発表後クラス全員参加型の討論を行う」(小林 2008: 387)、「本来、読解の選択肢問題が解けるという事は、ほぼ4つある選択肢の中でどのような理由でその中の1つを選んだかを、学習者が本文に沿って「思考」した結果選び取った答えだという事を意味している」(小林 2009: 3・4)といった発言が示唆に富んでいる。小説を主要テーマとする名著選読はその方式を適用する場合、グループ学習によって、受講者独自の観点に立った多項選択式テストの質問バンクを作成してもらったほうが総合復習の効果が期待できるだろう。その際に、Hot PotatoesのJQuizの機能を活用して、ランダム提示する四択の質問バンクを作成することができる。仕事分担としては、グループごとに専ら質問の内容面を考えてきてもらう。教員

4:37
 Your score is 60%.
 Some of your answers are incorrect. They have been left in place.

慶応3年1月5日(1867年2月9日) - 大正5年(1916年)12月9日

日本の小説家、評論家、英文学者。本名、夏目 金之助(なつめ ぎんのすけ)。『吾輩は猫である』『こゝろ』などの作品で広く知られる。森鷗外と並ぶ明治・大正時代の文豪である。江戸の牛込馬場下横町(現在の東京都新宿区喜久井町)出身。俳号は愚陀仏。

大学時代に正岡子規と出会い、俳句を学ぶ。帝国大学(後に東京帝国大学)英文科卒業後、松山で愛媛県尋常中学教師、熊本で五高教授などを務めた後、英国 Clueへ留学。帰国後、東京帝大講師として英文学を講じながら、「吾輩は猫である」を雑誌『ホトギス』に発表。これが評判になり「坊っちゃん」「倫敦塔」などを書く。

その後朝日新聞社に入社し、「虞美人草」「三四郎」などを掲載。当初は Clue と呼ばれた。

「修善寺の大患」後は、「行人」「こゝろ」「硝子戸の中」などを執筆。「則天去私」(そくてんきよし)の境地に達したといわれる。晩年は胃潰瘍に悩まされ、「明暗」が絶筆となった。

昭和59年(1984年)から平成16年(2004年)まで発行された日本銀行券D千円券に肖像が採用された。

(図2) クイズ ザ・夏目漱石

側がソフトの技術面を支援したうえで仕上げたhtmlファイルを各グループに返して、これを発表してもらったようにした。

前節で述べた作家に応じて取り上げた作品はできるだけ漫画形式のテキストを提示した。『一握の砂』『ころも』『高瀬舟』『羅生門』『セロ弾きのゴーシュ』『伊豆の踊り子』『山月記』『サラダ記念日』『トリアングル』はなるべく原作に忠実に描かれた漫画を導入した。辞書を引かないと理解できないような活字本よりも想像力の欠如を補う漫画のほうがむしろ応用日本語学科（特に社会人夜学生）のニーズに合っていた。詩歌の「永訣の朝」「雨ニモ負ケズ」と短編の「セメント樽の中の手紙」は原文を教員が読み上げるが、「注文の多い料理店」などは台北の雑誌『ステップ日本語』（2009年9月～12月）で取り上げられたばかりだったため、朗詠CDを再生しながら、その鑑賞を進めていった。要するに、できるだけ漫画やCDなどのメディアを駆使して作品世界にアプローチしようとしたわけである。

作家の認識と作品の熟読を終えた段階で、7グループがそれぞれの10問作成に取り組んだ。設問は日本語でも中国語でもかまわないが、正解は唯一でなければならないし、誤答選択肢（distractor）は学生を当惑させやすく、かつ水掛け論（controversy）が避けられるような質を目指すように、と指示しておいた。リーダーはこれをまとめた上でDOCファイルとしてムードルに提出するわけだが、Hot PotatoesのJQuizに移す前に、およそ4つの問題点が浮かび上がってきた。

2.2.1 誤字・当て字

設問の中に、人名の誤字・当て字が使用されている。たとえば、「森歐外曾到那個國家留學？」では作家名を「森鷗外」に訂正せねばならない。「宮澤賢治的作品，大多以什麼爲主？」という設問に対して、「1 童話 2 散文 3 俳句 4 小説」の選択肢が設定されているが、3におけるジャンル名は「俳句」に訂正せねばならない。このように、作者・作品・文芸用語を問わず誤字・当て字が目立つのもっとも根本的な原因は、中国語の同音異義語を呼び出す注音入力法にあるといえるだろう。仮に設問を日本語だけに限定したら、このような問題は起こりようがないはずである。

なお、「被譽爲日本近代的兩大文豪家爲？」という設問における衍字や「^{ママ}俄万智會畫漫」という選択肢における脱字といった細かい問題もある。

2.2.2 文法の間違い

中島敦に関する設問として、「中島家は祖父の代から何の学問を志し？」というものがある。たとえ文末の動詞活用は正しくても助動詞がないから正確な文にはなっていない。「中島家は祖父の代から何の学問を志してきたか。」と直したほうがよかるう。また、「下記，どれが「山月記」のテーマではない？」という設問は「下記のうち、「山月記」のテーマでないのはどれか」にしたほうがより自然だが、それはともかくとして、それに対して、「1 変身の面白さ。2 人間の自我，自意識の探求。3 願望と挫折，その悲しさ。4 人に理解できないの悲しさ。」という選択肢が用意されている。そのうち、4は「他人に理解されない悲しさ。」とでも直さないと文法に合わない。日本語による

質問作りというチャレンジ精神は評価せねばならないが、ただ用言と助詞をめぐる誤用が認められる。添削すべき箇所常に目を光らさないかぎり、読解力を培う際に支障を来すものとなってく
るだろう。

2.2.3 選択肢の欠如

夏目漱石に関する設問として、「那一句是K的名言？」という中国語の問いに対して、「1 精神的
向上心の無い者は馬鹿だ 2 人は裏切^{ママ(み)}るのだ 3 兄妹見^{ママ(み)}たいな人間と結婚できますか 4」とい
う選択肢が準備されている。中国語、日本語混用の形式は別に理解の妨げにはならないが、正解は
1だからといって、4を空白のまま放置させてはならない。たとえば、「4 時は金なり」などのよう
に補完しないと、四択の基本形式が整わない恐れがある。

2.2.4 複数の正解

近代文学二大文豪に関しては、「金之助為何會用漱石當筆名？」という設問に対して、「1 夏目跟
好友正岡子規借用，子規從此讓給夏目當筆名 2「漱石」原意為砥礪牙齒，延伸出符合堅強的意志
3 夏目的好友虛子建議的 4 去給算命仙算的」という選択肢が考えられた。これを検討すると、1
と2が同時に正解となりうるという問題を指摘せざるを得ない。正解は1つという基本形式を守る
ためにも、2は「「漱石」原意為牙粉，有益牙齒健康」などのように書き換えないとならないだろう。

また、「^{ママ(中)}莊兵衛認為喜助有罪嗎？」という作品の核心に踏み込んだ設問に対して、「1 有 2 没
有 3 不知道 4 交給上司裁定」という回答が用意されている。4を正解のつもりで設定したと
いうが、妥当ではないだろう。これは林（2009：10）の指摘「喜助の話聞いた後で、お上の裁き
を疑い始めた。しかし、疑っても下級官吏の庄兵衛は良心が芽生えてきたもう一人の庄兵衛を抑え
てお上の判断に任せるしかない。」を考慮に入れると、内心は無罪ではないかと思っているはずだか
ら2もありうるだろう。したがって、選択肢2は「交由人民裁定」とでもしたほうがよいだろう。

質問作りの主導権をグループに委ね
てはいるが、教員の手を経て仕上が
ったhtmlファイルをもって、教壇で読み
上げて解説してもらった。中途半端な
理解だけでは答えられそうにないとい
う緊張感を抱かせるためにも、設問・
選択肢は無作為提示に設定しておいた。
そのため、同じグループのメンバーは
もちろん、ほかのクラスメート達が前
向きにこれに答えようとする姿勢を引
き出せた。それは最後の盛り上がりの
場に顕著に現れた。こういう形でやっ

5:51	
Your score is 100%. Questions completed so far: 2/10.	
Show all questions	
<= 10 / 10	
讀完小說「高潮舟」後，以下那一項是作者想要傳達的主題？	
A. ?	冷漠無情的人性
B. ?	均富的重要
C. ?	生命的可貴
D. :-)	安樂死

(図3) クイズ ザ・森鷗外

ていけば、作品世界の核心に一層迫り得るのみならず、作家についてクラスメート同士で対話するチャンスが増えることになる。グループ学習の成果というべき設問については、内容としては意匠に富んだ点も認められる。読解力を高めるために、必ずしも100%教員の手頼らなくてもいい。部分的に学生の手を貸してもらえれば、その創意を最大限に引き出せるだろうし、その上、教員のチェックと助力が行き届いていれば読解力を向上させるために一歩前進できる、といえるのではないだろうか。

3. 「チームティーチング制度」の導入

「日本名著選読」をムードルと結合した結果、学生の読解力を引き出したことは前述した通りである。読解能力を更に追求するならば、日本文学に関わりを持った台湾現代作家を招くのがこれを培う最適な方法の一つであろう。

「日本名著選読」のシラバスに入れる作家は殆ど小説家ではあるが、詩人・歌人だけでなく、山本健吉『俳句の世界』（講談社の名著シリーズ、1969）と名著複製全集編集委員会（編）『漱石俳句集』（ほるぶ、1975）といった出版状況からすれば、俳句も名著として市民権を得ているように思われる。だから、俳人もリストアップしていた。ちょうどそこへ、銘伝大学が教育部から2010年の教学卓越計画の補助を獲得したというニュースが飛び込んだ。本授業がその「チームティーチング制度」（双師制度）との接点があると判断して、台北歌壇運営委員の李錦上を講師として迎えるという申し込みを出したところ、6時間（9600元）という条件の基で許可が下りた。

日本の国語教育の場合、「俳句学習、特に名句鑑賞と句作指導とによる「よむ・かく」授業を通して展開する」ような矢尾（1996：111）の実例がある。句会も風間（2002：1）によって開かれている。このように、鑑賞と創作は一体両面であって、俳句を実際に「詠む」ことによって自ずから俳句を「読む」力が増すことは間違いのないであろう。

外国人留学生を対象にした俳句教育については、橋本（2002：23・134）の著作において議論がなされている。「自分の好きな俳句について語るができる。（できればそれを文章化する。）」と「四季の変化のない地域の学生は、紅葉・木枯し・こたつなどの季語を使って、句作りすることを楽しんでつぎつぎと傑作を生んでいった」という実践報告が知られる。一方、台湾の教育現場を見るに、学生による日本語俳句を紀要「中日文化」の「華岡俳壇」に発表する文化大学の営みが見られるし、英詩を教える立場から、俳句鑑賞を経た後で英語俳句創作の活動に踏み切るという台湾師範大学の試み⁽¹⁾もある。

ここではそうした意見と成果に刺激されて、授業の質的向上をもたらすこの折角のチャンスを生かすために、筆者は読解力にとどまらず、プラスアルファとして作文力（厳密に言うと「作句力」）のレベルアップも図ろうとした。

3.1 日台両地俳句の秀作鑑賞から剣潭句会へ

「チームティーチング制度」の6時間は、3週間に亘って実行に移した。最初の2時間は講師の紹介、漫画による日本歌人（晶子、夕暮、牧水、白秋、万智）の短歌の鑑賞を推し進めた。2週間目の授業は漫画による日本俳人の俳句（誓子の新年の句、秋桜子の春の句、水尾の夏の句、子規の秋の句、子規の冬の句）の醍醐味を味わい、李講師が「読売新聞」短歌欄に発表したの自作や雑誌「ホトトギス」に入った旧作について本人しか知りえないような創作秘話（李 2011：52）を公開し、BSスペシャル「地球俳句 台湾 日本語で人生を詠む」（2003年1月22日放送）に出演した野柳吟行会と円山大飯店句会を紹介した。俳句鑑賞中、俳句作法の知識の講義ばかりでなく作句の実演もあったし、その当意即妙の即吟ぶりは皆を魅了した。

次に時節に応じて「冬」に関する有季定型の俳句を作ると宿題を指定。ムードルを通じて詠草を集めたところ、皆締め切りまでに出してくれた。電子メールによる詠草の提出よりも、ムードルのほうが効率は良かった。句会の前準備としてムードルの宿題機能（CMI）を駆使すると、雑然とした筆跡に煩わされることなしに句会の詠草一覧表を作成することができたのである。

CMIのお陰で効率よく句会の詠草一覧表を剣潭句会.xlsとして作成し、直ちにリソースとして追加できた。3週間目に予定していた「剣潭句会」に備えるために、李講師にあらかじめ書いてもらった添削結果を直ちにムードルを通じて学生にフィードバックすることができるのみならず、ハンドアウトも用意することができた。2009年12月10日、剣潭句会が正式に始まると、クラス全員に匿名の選句用紙（選句.pdfもリソースとして追加していた）を配布し、クラス全員に選句（3句ずつ）と共鳴点・添削意見を記入してもらった。次に、筆者が司会者として互選結果を逐一読み上げながら、全員で統計作業を始めた。結果、次の作品がベスト3に入った。

- ・年の暮れ思い乱れず一人旅（9票→天）
- ・風に乗るクリスマス曲町を通る（8票→地）
- ・冬の雪日があたるきらきらと（5票→人）

天については、「年末の時、寂しい」という学生の書いた共鳴点がある。地については、「クリスマスの雰囲気が感じられそう」という共鳴者が出た。人は字足らずではあるが、それにも関わらず「冬の雪の日暖かくて綺麗なあ」というふう^{ママ(だなあ)}に共鳴された。

次に、李講師は次の佳作を選び取った。

- ・冬休み楽しみごとは朝寝坊
- ・冬至の日母の姿を思い出す

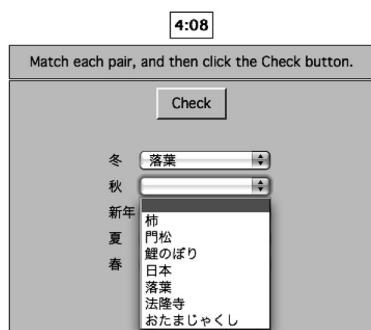
前者については、「冬休み今日も昨日も朝寝坊」というふう^{ママ(だなあ)}に添削され、「面白い一句です。でも又外に何か色んな好きな事たくさんあるでせう。正直な所が良い」と評された。後者は「冬至の日しみじみ母を思ひ出す」と添削され、「母の姿を思ふしみじみした思ひ出は何時まで忘れられない」と評された。

上位5名が李講師によって授けられたプレゼントを手にしつつ記念写真を撮った。そして、句会直後、次のような感想を引き出すことができた。

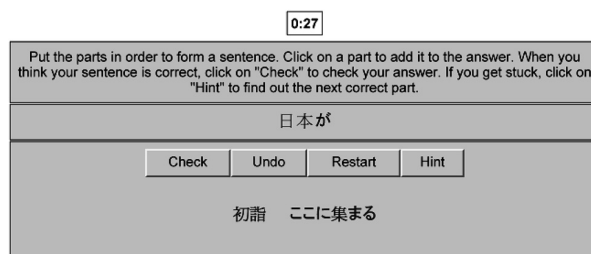
俳句は年寄りの手遊びだと思っていた。しかし、李先生の授業を聞いてから、それに興味を覚

えるようになってきた。俳句の宿題が出されるということで創作欲が掻き立てられた。我々の詠草は、さらに選評を経て天地人が決まり、本当に面白かった！単なる文字遊びに陥ることなく、初心者であっても簡単に俳句が作れるものだから、興味深い学習経験だったと思う。

経済産業省商務情報政策局情報処理振興課（2005：8）によると、eラーニングの特徴として「デジタル化」と「インタラクティブ性」が挙げられるという。外国人にとって俳句を導入する場合、授業の全容を録画したほうが、事後の理解を高めることに繋がるだろう。そこで、筆者は一般の教室をやめて、常設ライブカメラを備えた国際会議室を使用した。すると、教室の動態を様々な角度から立体的に把握し、DVD（3回の授業はそれぞれ1：24：12, 1：19：58, 1：10：59）にすることができた。この録画授業のDVDを学生に貸し、なおかつ視聴させたところ、復習を効率よくさせることができた。また、「インタラクティブ性」を高めるために筆者はHot PotatoesのJMatch機能を活かして、授業中取り上げた作品と季語一覧表を踏まえつつ、季題に即した正しい選択肢を選ぶというマッチングの問題を用意しておいた。Hot PotatoesのJMix機能を使って並べ替え問題も作成した。こうした質問バンクをムードルにリソースとして設定しておき、何回も練習させれば、五七五の文学の本質をますます捉えられるに違いない。



(図4) マッチングの問題



(図5) 並べ替え問題

3.2 全国俳句大会への挑戦

下半期を迎えると、義守大学から「全国第一回日文俳句大賞」という未曾有の俳句募集ポスターが届けられた。「粽」「蝉」「ハイビスカス」という季語を読み入れる題詠組とそれ以外の季語を利用してよいとする雑詠組に分けられている。すでに「剣潭句会」を経験してきたクラスであったから、応募させねば人材の埋没になるだろうと判断し、直ちにムードルを通して投句作業を促した。21名全員が、一人あたり2句以上投句したが、下記10句が目を引きいた。

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 蝉鳴くと聞いた瞬間夏来たよ | 2 夏の夜蝉の合唱子守唄 |
| 3 受験で(にて)むしゃくしゃさせる蝉時雨 | 4 ちまき食べもはやこれまで衣替え |
| 5 ぶっそうげや南国の空懐かしい | 6 新年に放天燈は夢うつつ |
| 7 紫陽花が雨に輝く恋ころ | 8 霧の雨祖先を祭る清明や |
| 9 秋刀魚焼く猫が壁から覗き込む | 10 ぱっと赤く何が恥じ入る紅葉咲く |

1は上五の動詞句を擬音語に直した。2は上五の名詞を地元の天候に合わせて「熱帯夜」にして、また下五は上五と同時に名詞止めとなっているから結句の名詞を切れ字に直した。3は上五が字足らずになるおそれがあるため、作者自身の用意していた音律の規定に叶う助詞を採用。4は粽と衣替えが共に夏の季語であり、季重なりという問題が発生している。主題を分裂させないためにも、上五を同じ年中行事でも別の描写に直した上で、助詞も調整した。5の上五の字余りと下五の形容詞の使用という問題は、10と共通しているが、作者の気持ちを尊重して、そのままにさせた。6は上五の新年と放天燈という季語が重複しているため、前者を別の名詞に置換した。7は複合名詞の濁音が抜けていたため、これを補完した。8は切れの場所を間違えているため、下五と上五の位置を取り替えさせた。9は動詞活用形を連用形に置き換えてはどうかと提案した。

要するに、俳句の規則（切れ字・字足らず・字余り・季重なり）と語彙（体言）、文法（用言・助詞）といったハードルを乗り越えない限り、俳句習作の試行は成功できそうにないだろう。初心者はそうしたハンディキャップを抱えてはいるが、それぞれの詩想を最大限に生かした上での添削を行わなければならない。そのために、中国語を媒介にしてまで、作者の詩情（ポエジー）を確かめるように努めた。結果、下記10句を実行委員会に提出した。

- | | |
|---------------------------------|-------------------|
| ① ミンミンと聞いた瞬間夏来たよ | ② 熱帯夜蝉の合唱子守かな |
| ③ 受験にてむしゃくしゃさせる蝉時雨 | ④ 卵立ちもはやこれにて衣替え |
| ⑤ ぶっそうげや南国の空懐かしい | ⑥ 星影に放天燈は夢うつつ |
| ⑦ 紫陽花が雨に輝く恋ごころ | ⑧ 清明や祖先を祭る霧の雨 |
| ⑨ 秋刀魚焼き猫が壁から覗き込む ⁽²⁾ | ⑩ ぱっと赤く何が恥じ入る紅葉咲く |

そのうち、3句が入賞した。①は選者黄靈芝（2010：11）によって「思い出ぶかいミンミンの鳴き声なのだ。そしてそんなある年の夏に忘れがたい何事かがあったのであろう。そんなミンミン蝉、そんな夏」と評されて、「佳作」と認められた。⑥は選者楊海瑞（2010：25）によって「典型的な台湾の俳句。夜空へ登る天燈に宿願を乗せた上元の夜の一景」と評され、「第三席」を贈られた。⑨は選者李錦上（2010：29）によって「秋刀魚焼く、香ばしい匂いの流れくる壁に沿って、猫がやって来た。後で魚の骨でも頂戴出来そうと思っている、よくある一景です」と評価され、「第一席」の賞状を授与された。

これらの成果はチームティーチング制度を通じて培われてきた作句力が認められた証にほかならない。賞状と賞金はともかくとして、台湾俳壇有力者からのコメントを具体的に聞かせることによって、創作意欲が掻き立てられるのみならず、その間にできた師弟のような関係をばねにして、台湾俳壇の将来の更なる発展へと繋げていく基礎が同時に固まりつつあるようにさえ見えた。

4. おわりに

ムードルを要にして「日本名著選読」という授業を運営する、筆者なりの試行はこれまで述べた通りである。

まず、作家経歴と作品世界の把握を Hot Potatoes（穴埋めと四択）を通して処理することによって、相乗効果があげられ、時間制限とランダム提示の設定によってスリルを味わいながら読解力を高めていくことができた。学生によって考案された質問バンクには表記・文法・評価法などの知識に欠落があるにしても、これを事前に訂正しておけば、学習者中心の（批判に堪えられる）教材へと発展させることができる。

次に、日本文壇と繋がりを持った台湾人作家を招請しうるかどうかも、この授業の可能性の幅を左右する。先輩作家による連続講義（にあわせてデジタル撮影のDVDを同時制作）で、日台両地の短詩型文学についての紹介、俳句詠作の手解き、句会の運営などを通して、日本詩歌に対する学生の読解力と創作力を同時にレベルアップさせることができた。応用日本語学科であっても、日本文学に少しも見劣りをしないような力作の俳句を残したことは特筆すべきであろう。俳句の指導のプロセスで、Hot Potatoesを活用すれば、マッチングの問題と並べ替え問題がすぐにできあがる。これを用いて繰り返し練習させると、俳句のリズム感覚が身につくばかりでなく、季節の言葉に対しても自ずから敏感になる。要となったムードルが宿題管理の役割を果たし、これを教師に提供したため、句会が成功裡に終わったのである。

ムードルというプラットフォームがどこまで活用できるのか、「日本名著選読」の立場から多角的に考えてみた。生かし方しだいでは、普通のやりかた以上の効率のよさに加え、ゲーム感覚のクイズによって学生の学習意欲を引き出すこともできる。

ただ、コンピュータを利用した教師支援システムを技術的に活用する場合、形式的には単調さから抜け出すことはできても、内容面（クイズと俳句詠作）としては従来通りの学習者による錯誤（誤用、誤写、誤解など）が連動して消えてしまうというわけではない。技術的サポートを提供することに加えて、内容的にも、日中両言語にわたる添削作業を絶えず教員側に求めてやまない。この二重の負担を覚悟していなければ、eラーニング時代の「日本名著選読」を運営することは無理だろう。

〈注〉

- (1) 莊 (1999: 62) の論文には、water, summer, a piece of chalk, love といった題が羅列されている。季語を必ずしも用いるとは限らないため、作品の深みが半減してしまうおそれがある。また、挙げられた学生の作品に即していえば、第 (1) 首は“5-7-5”を厳守している。と同時に“10-4-3”の音数を有する第 (4) 首は合計十七音の俳句を目指しているように見えるから、辛うじて定型といえよう。ただ“6-4-4”の第 (3) 首などに至っては、破調の方向も容認する姿勢が見えてくる。また、第 (3) 首は“a piece of chalk”という題も季語ではないし、作品のなかにも季語を読み入れていない。要するに、定型の遵守も季語の機能もさほど重要視されず、英語による俳句の狙いは、日本文学の伝統への接近ではなくて、俳句形式は触媒にすぎなかった。それによって啓発されつつ簡潔な英語短詩を目指そうとしていたというのがむしろその授業活動の本質だったと見て取れる。それと一線を画するのが、日本語学科の採るべき立場であろう。
- (2) 作者が「香烤秋刀魚 野貓牆頭引頸長 虎視眈眈望」という訳文を残している。

参考文献

(日本語)

- 秋山虔他 (2000)『原色シグマ 新日本文学史』文英堂
- 風間重利 (2002)「句会授業の実践報告1: 俳句創作を通じた自己表現と相互交流の可能性」『高校教育研究』54 金沢大学附属高等学校 pp.1-12
- 経済産業省商務情報政策局情報処理振興課 (2005)『eラーニング白書〈2005-2006年版〉』オーム社
- 黄靈芝 (2010.6)「講評」『台湾俳句ゆうかりぶたす』1 義守大学応用日語学系 pp.11-12
- 小林由紀 (2008.12)「日本語読解教育におけるテキスト・リーディング—二つのモデルの有効性」『台湾日本語文学報』24 台湾日本語文学会 pp.377-401
- (2009.6)「読解教育における新たな授業の試み」『2009年夏季日語教学研究発表会会議手冊』台湾日語教育学会 pp.2-9
- 橋本澄子 (2002)『日本語教育への道程——日本語・日本事情の授業の軌跡』溪水社
- 濱岡美郎 (2008)『Moodleを使って授業する!: なるほど簡単マニュアル』海文堂
- 真下三郎他 (2003)『新編日本文学史』第一学習社
- 矢尾米一 (1996.1)「ことばと想像を鍛える: 演劇・俳句による表現学習」『関学教職教育』1 関西学院大学 pp.111-116
- 楊海瑞 (2010.6)「講評」『台湾俳句ゆうかりぶたす』1 義守大学応用日語学系 pp.25-26
- 李錦上 (2010.6)「講評」『台湾俳句ゆうかりぶたす』1 義守大学応用日語学系 pp.29-30
- (2011.6)「私と俳句との出会い」『台湾俳句ゆうかりぶたす』2 義守大学応用日語学系 pp.49-55
- 林雪星 (2009.1)「名著選読の指導試行——森鷗外『高瀬舟』を例として」『東呉日語教育学報』32 東呉大学日本語学系 pp.1-22

(中国語)

- 莊坤良 (1999.12)「俳句創作與英詩教學」(「人文及社會學科教學通訊」58 教育部人文及社會學科教育指導委員會 pp.55-63)

使用した漫画教材

(日本語)

- 芥川龍之介 (著) バラエティ・アートワークス (イラスト) (2007)『まんがで読破羅生門』イースト・プレス
- 石塚修 (著) 宮坂栄一 (イラスト) (1996)『まんが 俳句なんでも事典』金の星社
- 川端康成 (1991)『伊豆の踊り子』ぎょうせい
- 中川良孝 (1989)『教科書にでてくる 短歌』くもん 所収「石川啄木の一生」, 俵万智短歌
- 中島敦 (1992)『山月記・李陵』ぎょうせい 所収「山月記」
- 夏目漱石 (著) バラエティ・アートワークス (イラスト) (2007)『まんがで読破ころ』イースト・プレス
- 宮沢賢治 (1992)『銀河鉄道の夜』ぎょうせい 所収「セロ弾きのゴーシュ」
- 森鷗外 (1991)『山椒大夫・高瀬舟』ぎょうせい 所収「高瀬舟」

(中国語)

- 俵万智 (原作) 高見真子 (畫) 董筱雯 (譯) (2007)『激情三角』東立

付記: 本稿は「2011年応用日語学術研討会」(5月27日, 台湾・育達商業科技大学)にて, 口頭発表した内容に加筆修正したものである。